

# 競技者注意事項

6.22 訂正

この大会は、2026年（財）日本陸上競技連盟競技規則、及び本大会の規定により行う。

## 1. 招集について。

- ①競技者係（100mスタート後方）の用紙に○をつけ、一次点呼とする。
- ②点呼終了時刻は、トラック競技は競技開始時刻の15分前、フィールド競技は競技開始の20分前とする。
- ③点呼終了時刻の10分前から点呼を開始する。余裕をもって召集所に集合すること。
- ④召集所での点呼終了後、スタート位置・競技場所へと移動する。

### 【トラック競技】

- ・競技者係にて一次点呼を受ける。
- ・棄権の場合も必ず競技者係に申し出る。
- ・フィールド競技との重複がある場合は必ず競技者係に伝える。
- ・召集所で待機し、点呼を受ける。
- ・誘導に従ってスタート地点に移動する。
- ・出発係が最終的にナンバーを確認して、スタート位置に着く。

### 【フィールド競技】

- ・競技者係にて一次点呼を受ける。
  - ・棄権の場合も必ず競技者係に申し出る。
  - ・トラック競技との重複がある場合は必ず競技者係に伝える。
  - ・召集所で待機し、点呼を受ける。
  - ・誘導に従って移動し、フィールドの役員（呼び出し）がナンバーを開始する。
  - ・トラック競技に移動する際、またはトラック競技から戻る際には、いずれも必ず両方の役員（トラックは出発係・フィールドは呼び出し係）に申し出る。
- ※棒高跳のみ、競技者係にて一次点呼を受けた後、競技開始50分前までに競技場所に直接集合とする。

### 【混成競技】

- ・競技者係にて一次点呼を受ける。
- ・棄権の場合も必ず競技者係に申し出る。
- ・他競技との重複がある場合は確実に申し出る。
- ・召集所で待機し、点呼を受ける。
- ・誘導に従ってスタート地点に移動し、1種目目（ハードル競技）を行う。
- ・2種目目以降は、現地集合とする。点呼終了時間は競技開始15分前とする。

### 【リレー競技】

- ・リレーのオーダー用紙は、「第1組目の招集完了時刻の1時間前まで」に、本部記録員に提出すること。なお、一度提出したオーダーの変更について、怪我などで競技不可能となった時以外は認められない。
  - ・オーダー用紙はホームページからダウンロードするか、競技者係で受け取ること。受付で配布しません。
  - ・男子は黒、女子は赤で記入する。
  - ・点呼は他のトラック種目と同様に行う。
  - ・召集所でナンバーを確認し、1～4走ごとに出走場所へ移動する。
  - ・出発係がナンバーを確認し、スタート位置に着く。
- 
- ・招集に遅れた者の出場は認めない。余裕をもって集合すること。
  - ・点呼終了後、競技者は召集所を離れてはいけない。やむを得ず離れる場合は、必ず競技者係の許可を得ること。
  - ・各競技種目の移動はすべて競技者係の誘導によって行い、勝手に競技場所に移動しない。
  - ・競技を棄権する場合も、競技者係に申し出ること。「点呼をしない＝棄権」という意味ではない。
  - ・競技が重複して出場する競技者は、その旨を競技者係及び審判員に申し出て、棄権にならないよう注意すること。
  - ・フィールド競技からトラック競技に移動する際は、必ず競技役員に申し出てから移動すること。
  - ・競技が重複して移動する場合、両方の審判員（フィールド競技は「呼び出しの審判員」／トラック競技は「出発係の審判員」）に伝えること。（トラック競技のフィニッシュ後は、直接フィールド種目に向かってもよい。）

## 2. 走路順・試技順について

- ①プログラム記載通りとし、トラック競技の決勝のレーンは本部記録で決定する。
- ②フィールド競技の4回目以降の試技は、3回目までの記録をもとに決定する。
- ③フィールド競技とトラック競技が重複している場合、審判員の判断でフィールド競技の試技順変更の対応をすることができる。

### 3. トラック競技

- ①スタートについては、競技規則TR16.5.3は、本大会では適用せず、注意を与えるものとする。  
(スタートの静止不十分については、注意を与えるものとする。)
- ②腰ナンバーをユニフォームの右腰やや後ろにつけること。(中長距離の9レーン以降は競技者係で受け取る)
- ③1500m、3000mについては、競技者係から受け取ったレーン番号ビブスをつける。
- ④400m、800mについてはタイムレース決勝とする。
- ⑤800mのスタートはセパレートで行う。出走が10名の場合、9レーンの選手は2レーンと、10レーンの選手は7レーンと同じレーンで出走する。  
※短距離ではフィニッシュ後の衝突を避けるため、自分のレーン(曲走路)に沿って走り抜けること。  
※長距離ではフィニッシュ後にすぐ倒れこむと危険である。ゴール地点から離れること。
- ⑥次の種目については、小樽・後志で同時スタートする  
・後志男子1500m(小樽1年男子1500mと同時) ・男子3000m ・女子1500m  
・男子四種競技 ・女子四種競技

### 4. フィールド競技

- ①走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

走高跳	男子	練習 1m15 / 1m40	1m20から5cm上げ	1m55から3cm上げ
	女子	練習 1m05 / 1m30	1m10から5cm上げ	1m40から3cm上げ
四種走高跳	男子	練習 1m05 / 1m40	1m10から3cm上げ	
	女子	練習 1m00 / 1m30	1m00から3cm上げ	
棒高跳	男子	練習試技を踏まえて、審判主任の判断で決定する。		

- ②跳躍競技においてのみ、アスリートビブスは胸部または背部のみでもよい。
- ③トラック競技と重複している場合、審判の判断で試技順を変更することができる。
- ④走幅跳については、以下のピットで行う。  
・後志男子～Aピット ・小樽男子～Bピット  
・後志女子及び小樽女子試技順1～4：Aピット ・小樽女子試技順5～14：Bピット

### 5. 練習について

- ①8時40分まで競技場を開放する。開始時刻は定めないが、競技場準備の支障にならないこと。
- ②ホームストレート競技の際は、運営に支障のない範囲でバックストレートの一部を開放する。
- ③トラック内・フィールド内からの応援や助力は行わない。
- ④リレー練習および競技後は必ずマーキングテープをはがすこと。
- ⑤ウォーミングアップは競技に支障にならないようバックストレートと外側トラックを利用のこと。ただしバトン以外の器具の持ち込みは認めない。
- ⑥逆走は認めない。

### 6. シューズについて

- ①ピンは全天候型の9mm以下(走高跳12mm以下)とする。
- ②靴底の厚さは、800m未満20mm以内、800m以上25mm以内、フィールド20mm以内とする。  
ただし、砲丸投は除く。

### 7. 観戦について

- ①その競技に参加の選手またはチームメイト以外は競技場内に入ることはできない。
- ②メインスタンドでは着席して応援すること
- ③スマートフォン等の電子機器の扱いは学校生活と同様とし、使用を認めない(コーチングエリアは可とする)。
- ④観戦者(保護者)は、選手のいる芝スタンドへは入らないこと。保護者の対応が必要な場合、選手が向かうこと。
- ⑤望遠レンズでの撮影を禁止する。日本陸連迷惑撮影対策活動により、競技役員により撮影内容確認をする場合がある。(小樽後志陸上競技協会ホームページ参照)

### 8. その他

- ①競技中に写真判定室の前を通過しないこと。
- ②競技以外でフィニッシュライン(写真判定カメラ内)を通過しないこと。
- ③表彰は行わない。入賞者には賞状を授与する。賞状を学校ごとに本部2階へ受け取りに来ること。
- ④悪天候(雷など)の場合、日程変更や中止等もあり得る。
- ⑤個人情報(大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、その他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に)に利用する。